



成覚寺

県道42号を錫杖湖水荘から安濃川沿いに上流側へ1kmほど行ったところに落合橋があり、その付近で我賀浦川と黒曾川が合流しています。この二つの川の間に舌状に延びる丘陵に、十数軒の民家と成覚寺があり、この成覚寺には、平維盛にまつわる平家の伝承が残されています。

平維盛は「平家物語」では、寿永3（1184）年、屋島の戦いで敗れた後、那智沖で入水したとされていますが、成覚寺伝によると、維盛は入水したように見せかけて、31人の家来と共に現在の芸濃町河内の地に逃げ延びて草庵を建てて住まい、承元4（1210）年、享年53歳で没したと伝えられています。そして、維盛の念持仏であった三尊仏（釈迦、普



平維盛像（成覚寺所蔵）

田派に転派します。その際に、墓を真宗形式にし、寺号も維盛の法号「成覚院岩間浄圓」にちなんで、岩間山成覚寺と改めました。

成覚寺では、宝永7（1710）年、維盛の没後500年のときに梵鐘が作られました。今も成覚寺の鐘堂にあるその梵鐘は、津の鋳物師辻種永の作といわれています。

また、成覚寺には平維盛像が残されており、本堂裏には維盛の墓もあります。中央に「平維盛之墓」と刻まれた墓石は、寛政8（1796）年9月、維盛の600回忌の法要を十数年繰り上げて催したときに、墓域に新しく建てられたものです。碑銘の撰文は、巖垣龍溪の作とされています。

維盛の墓域は現在も整備が続けられ、平成11年には、ナギの木一対が植樹されました。ナギの木は、維盛の父である平重盛が、平治元（1159）年に熊野速

賢、文殊）を本尊として、この地に清運寺を建立したのが、成覚寺の起源とされています。

その後、清運寺は真言宗から禅宗となり、天正15（1588）年、真宗高



平維盛の墓

は、平家ゆかりの場所として地域の人々に大切に守られています。

（「広報津」平成24年6月16日号）

玉大社社殿落成の記念に霊力のある木として植えたところ、その後大木に育ち御神木となったことから、大変縁起のよい木とされ、平家ゆかりの地各地で植えられています。

現在も成覚寺